

# JB-15, 16型 ベローズ形伸縮管継手

製品記号 JB15-J(単式)  
JB16-J(複式)

銅配管用

銅配管の冷暖房、空気調和および衛生配管で、温度変化によって生じる管の軸方向の伸縮を吸収します。

### ■特徴

- 温度変化によって生じる銅管の軸方向の伸縮を吸収する伸縮管継手です。
- 内筒を挿入しているために流体の圧力損失が少なく流れがスムーズです。又、ベローズのバックリングを防止しますので寿命が長くなります。
- ベローズの材質は、SUS316Lを使用していますので堅牢で耐食性に優れています。
- 継手部長いため配管接続が容易です。万一ベローズが破損して交換する場合でも、ろう付部分はそのままでベローズ周りだけの取替えが可能です。

### ■仕様

型式(形式)	JB-15型(単式)	JB-16型(複式)
製品記号	JB15-J	JB16-J
適用流体	冷温水・空気・油・その他	
流体温度	100℃以下	
最高使用圧力	1.0MPa	
端接続	差込みろう付形	
材質	継手部(C1220T)、外筒(STKまたはSGP)、内筒・ベローズ(SUS316L)	
耐圧試験	水圧にて1.5MPa	

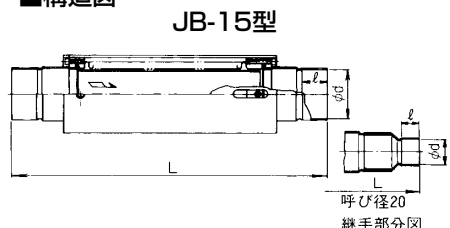


JB-15型

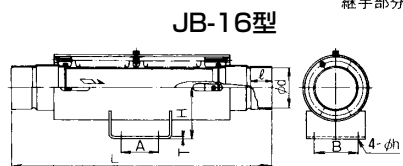


JB-16型

### ■構造図



JB-15型



JB-16型

### ■取付上のポイント

- 流れ方向が、銘板の矢印方向になる様に取付けてください。
- ベローズにねじり応力をかけない様に配管してください。
- ろう付を行う時は、ぬれ布等でドウカントギテ部を保護してください。

### ■寸法表 JB-15型(単式)

(mm)

呼び径	L	伸縮量		d	ℓ	質量(kg)
		伸び	縮み			
20	400	10	30	22.4	17	2.5
25	345	10	30	28.8	19	2.5
32	355	10	30	35.1	21	2.7
40	385	10	35	41.5	24	3.1
50	405	10	35	54.2	30	4.7
65	425	10	35	67.0	33	6
80	445	10	35	79.7	37	8.7
100	500	10	35	105.1	47	13.4

### JB-16型(複式)

(mm)

呼び径	L	伸縮量		d	ℓ	H	A	B	T	h	質量(kg)
		伸び	縮み								
20	520	20	60	22.4	17	80	90	45	3.2	12	4
25	465	20	60	28.8	19	80	90	45	3.2	12	4
32	495	20	60	35.1	21	80	90	45	3.2	12	4.3
40	525	20	70	41.5	24	89	100	60	3.2	12	5.4
50	575	20	70	54.2	30	95	100	60	3.2	12	7.4
65	605	20	70	67.0	33	127	100	70	4.5	19	10.1
80	620	20	70	79.7	37	127	100	70	4.5	19	14
100	700	20	70	105.1	47	152	135	95	4.5	19	21.5

### ■主アンカに加わる軸方向荷重一覧表

項目	呼び径	20	25	32	40	50	65	80	100
ベローズ有効面積	Ae (mm <sup>2</sup> )	892	892	1380	1960	3170	5150	7080	11100
ベローズばね定数	K (N/mm)	19	19	40	40	41	48	85	90
最高使用圧力1.0MPaによる力	Fp (N)	892	892	1380	1960	3170	5150	7080	11100
最大縮み量による力	Fe (N)	570	570	1200	1400	1435	1680	2975	3150
最高使用圧力時の合力	Fm=Fp+Fe (N)	1462	1462	2580	3360	4605	6830	10055	14250
水圧試験1.5MPaによる力	(N)	1338	1338	2070	2940	4755	7725	10620	16650

# 資料/JB型 ベローズ形伸縮管継手

## ■ベローズ材質SUS316Lについて

JIS B 2352ベローズ形伸縮管継手の規格では、ベローズの材料に参考として、SUS304、SUS304L、SUS316、SUS316L等を掲げています。弊社においては、ベ

ローズ材質の生命とも言える耐食耐久性を重視し、ベローズを含む全接液部材料にSUS316Lを使用していますが、このSUS316Lの材質は、SUS304とは比較す

るまでもなくSUS304Lと同等以上の性質を有するものです。参考までにSUS316LとSUS304Lの比較表を以下に記載します。

## ■SUS316LとSUS304Lの比較表

表1. 化学成分 (%)

種類	炭素 C	シリコン Si	マンガン Mn	リン P	イオウ S	ニッケル Ni	クロム Cr	モリブデン Mo
SUS316L	0.030以下	1.00以下	2.00以下	0.045以下	0.030以下	12.00~15.00	16.00~18.00	2.00~3.00
SUS304L	0.030以下	1.00以下	2.00以下	0.045以下	0.030以下	9.00~13.00	18.00~20.00	—

表2. 機械的性質

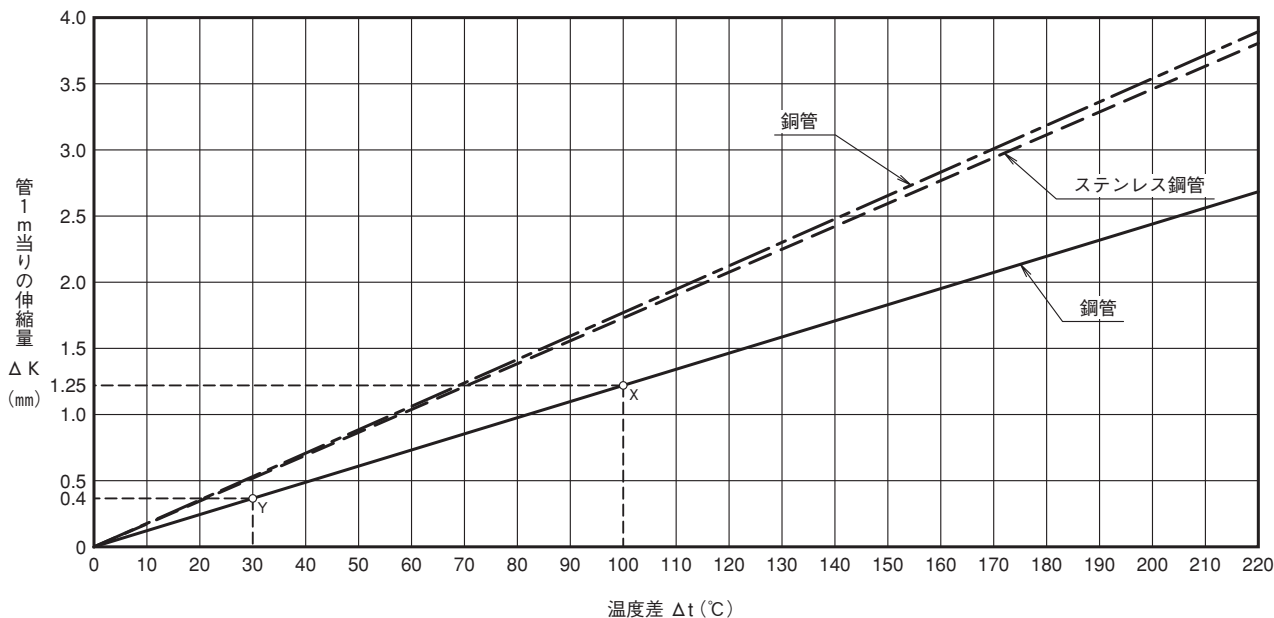
種類	引張試験			硬さ試験		
	耐力 (N/mm <sup>2</sup> )	引張強さ (N/mm <sup>2</sup> )	伸び (%)	HB	HRB	HV
SUS316L	175以上	480以上	40以上	187以下	90以下	200以下
SUS304L	175以上	480以上	40以上	187以下	90以下	200以下

表3. 耐食性

種類	全面腐食	粒界腐食	応力腐食割れ	孔食	隙間腐食
SUS316L	○	○	◎	◎	◎
SUS304L	○	○	○	○	○

注. ○：すぐれている ◎：よりすぐれている

■図1 管の1m当りの伸縮量



## ■伸縮管継手の選定

配管の材質、温度変化による伸縮量により、伸縮管継手の型式、本数を決定します。

●計算式 
$$n = \frac{\Delta l}{\delta}$$

$$\Delta l = \beta \times \Delta t \times l$$

- n : 継手本数 本
- δ : 継手の最大伸縮長さ mm
- Δl : 管の伸縮量 mm
- β : 管の線膨張係数 mm/m/°C
- 銅管 12.2×10<sup>-3</sup>

- 銅管 17.7×10<sup>-3</sup>
- ステンレス鋼管 17.3×10<sup>-3</sup>
- Δt : 温度差 °C
- l : 管の長さ m

●選定例

管の長さ (l) : 35m、最高使用温度 (t<sub>1</sub>) : 120°C  
 最低気温 (t<sub>2</sub>) : -10°C、取付時の気温 (t<sub>3</sub>) : 20°C  
 の場合の伸縮管継手の型式および本数 (n) を求めます。但し、管は銅管とし、継手は基準面間寸法で選定します。

# 資料/JB型 ベローズ形伸縮管継手

**注意**

設置時や運転に関する注意事項は、それぞれ別に用意された取扱説明書をご覧ください。

## 手順1. 管の伸縮量を求めます。

管の伸び側の温度差  $\Delta t_1 = t_1 - t_3 = 120 - 20 = 100^\circ\text{C}$   
 管の縮み側の温度差  $\Delta t_2 = t_3 - t_2 = 20 - (-10) = 30^\circ\text{C}$

図1. X点より

1m当りの管の伸び  $\Delta k_1 = 1.25\text{mm}$

図1. Y点より

1m当りの管の縮み  $\Delta k_2 = 0.40\text{mm}$

従って、

35mの管の伸び  $\Delta \ell_1 = \Delta k_1 \times \ell$   
 $= 1.25 \times 35 = 43.75\text{mm}$

管の縮み  $\Delta \ell_2 = \Delta k_2 \times \ell$   
 $= 0.40 \times 35 = 14.0\text{mm}$

管の伸び側 ( $\delta = 25\text{mm}$ )  $n = \frac{\Delta \ell_1}{\delta} = \frac{43.75}{25} = 1.75\text{本}$

管の縮み側 ( $\delta = 10\text{mm}$ )  $n = \frac{\Delta \ell_2}{\delta} = \frac{14.0}{10} = 1.40\text{本}$

管の伸び側、縮み側のうち大きい方の本数を採用しますから、2本となります。

JIS準拠品としてJB-14,22型(複式)を選定する場合、

管の伸び側 ( $\delta = 50\text{mm}$ )  $n = \frac{\Delta \ell_1}{\delta} = \frac{43.75}{50} = 0.875\text{本}$

管の縮み側 ( $\delta = 20\text{mm}$ )  $n = \frac{\Delta \ell_2}{\delta} = \frac{14.0}{20} = 0.70\text{本}$

管の伸び側、縮み側のうち大きい方の本数を採用しますから、1本となります。

その他の型式選定の場合でも同じ手順で求めます。

## 手順2. 継手の種類を決定し本数を求めます。

JIS準拠品としてJB-13,21型(単式)を選定する場合、

### ■取付上のポイント

- 流れ方向が銘板の矢印の方向になる様に取付けてください。
- ベローズにねじり応力をかけない様に取付けてください。
- 面間固定用下部部品は、配管後取外してください。

JB-13~18型はナットおよびザガネ

JB-21~24型はセットボルト

### ■取扱上のポイント

#### 1. アンカの設定

伸縮管継手を使用するときは、十分な強度のアンカ(固定点)が必要です。このアンカの設置場所とその種類は次の通りです。

##### ①主アンカ

- 閉止板を設けた直線配管の端末部
- 流れ方向が変わる曲管部
- レジューサで配管径が異なる二つの伸縮管継手の間
- 二つの伸縮管継手の間の配管部にバルブを設ける箇所
- 拘束のない伸縮管継手を含む分岐配管の入口部

##### ②中間アンカ

- 主アンカの間に伸縮管継手を2個以上使用する場合には、それぞれの伸縮管継手の中間部
- 複式伸縮管継手のアンカベース(取付脚)部

#### 2. ガイド、配管自重支持の設置

##### ①ガイド

伸縮管継手が正しく伸縮するためには、伸縮管継手と管との芯合わせ、および軸方向の動きに要する力を無理なくアンカに伝えるためにガイドが必要です。それぞれのガイド位置は次の間隔で設けてください。

配管の芯ずれは、呼び径125以下は $\pm 2\text{mm}$ 以内、呼び径150以上は $\pm 3\text{mm}$ 以内また、配管の平行度は $\pm 2^\circ$ 以内におさえてください。

- $L_1$ : 伸縮管継手から最初のNo.1ガイドまでの間隔
- $L_2$ : No.1ガイドからNo.2ガイドまでの間隔
- $L_3$ : No.2ガイドから中間ガイドまでの間隔

直管部主アンカに加わる荷重 $F_m$ (N)

$$F_m = F_p + F_e$$

$$F_p = A_e \times P$$

$$F_e = K \times S$$

曲管部主アンカに加わる荷重 $F_b$ (N)

$$F_b = 2F_m \sin \frac{\theta}{2} + F_c$$

$$F_c = \left( \frac{2A \rho V^2}{g} \sin \frac{\theta}{2} \right) \times 98.0665$$

中間アンカに加わる荷重 $F_i$ (N)

$$F_i = F_e$$

$F_p$ : 内圧による軸方向荷重 N

$F_e$ : 所定圧縮による荷重 N

$A_e$ : ベローズ有効面積  $\text{mm}^2$

$P$ : 使用圧力 MPa

$K$ : ベローズばね定数 N/mm

$S$ : 伸縮量 mm

$\theta$ : 配管の曲がり角度

(図5、配管例略図参照)

$F_c$ : 流体の遠心力による荷重 N

$A$ : 管の断面積  $\text{cm}^2$

$\rho$ : 流体密度  $\text{g/cm}^3$

$V$ : 流速 m/s

$g$ : 重力加速度  $980\text{cm/s}^2$

図2-1. ガイドの取付間隔

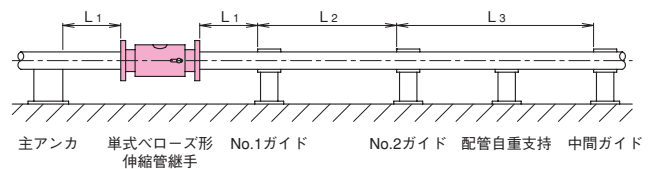
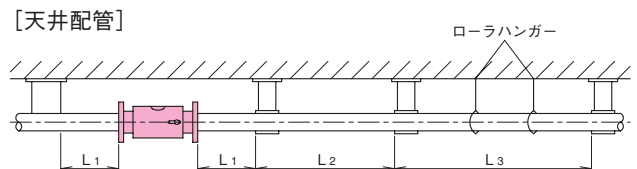


図2-2. 天井配管の例



注) ローラーハンガーのみの設置では、配管が挫屈を起こします。必ずガイドを設置してください。

# 資料/JB型 ベローズ形伸縮管継手

**注意** 設置時や運転に関する注意事項は、それぞれ別に用意された取扱説明書をご覧ください。

各ガイドの最大取付間隔は次式で求めてください。また、中間ガイド間隔 $L_3$  (最大値)は計算で求める代わりに、図3から求める事もできます。

$$L_1 \leq 4D$$

$$L_2 \leq 14D$$

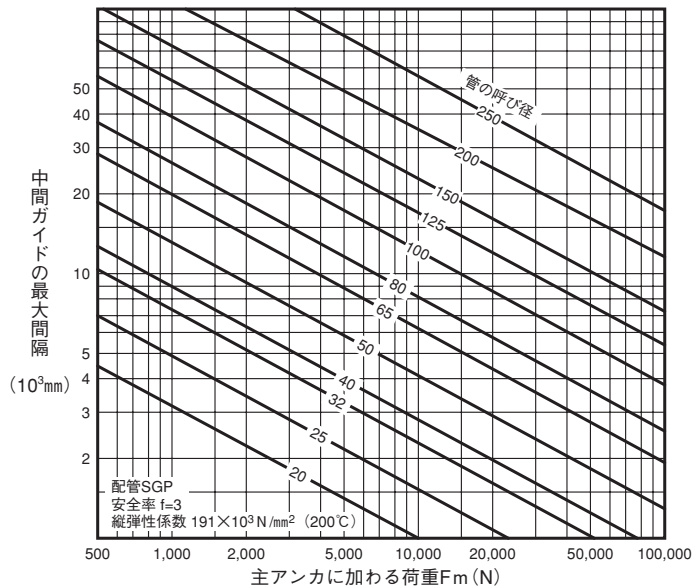
$$L_3 \leq \sqrt{\frac{\pi^2 EI}{f F_m}} \quad I = \frac{\pi}{64} (D^4 - d^4)$$

$L_1, L_2, L_3$ : ガイド間隔(最大値)	mm
D : 管の外径	mm
d : 管の内径	mm
E : 管材料の設計温度における縦弾性係数	N/mm <sup>2</sup>
鋼管200℃	191×10 <sup>9</sup> N/mm <sup>2</sup>
ステンレス鋼鋼管200℃	183×10 <sup>9</sup> N/mm <sup>2</sup>
銅管200℃	116×10 <sup>9</sup> N/mm <sup>2</sup>
I : 管の断面二次モーメント	mm <sup>4</sup>
f : 安全率	3以上
F <sub>m</sub> : 主アンカに加わる荷重	N

## ②配管自重支持

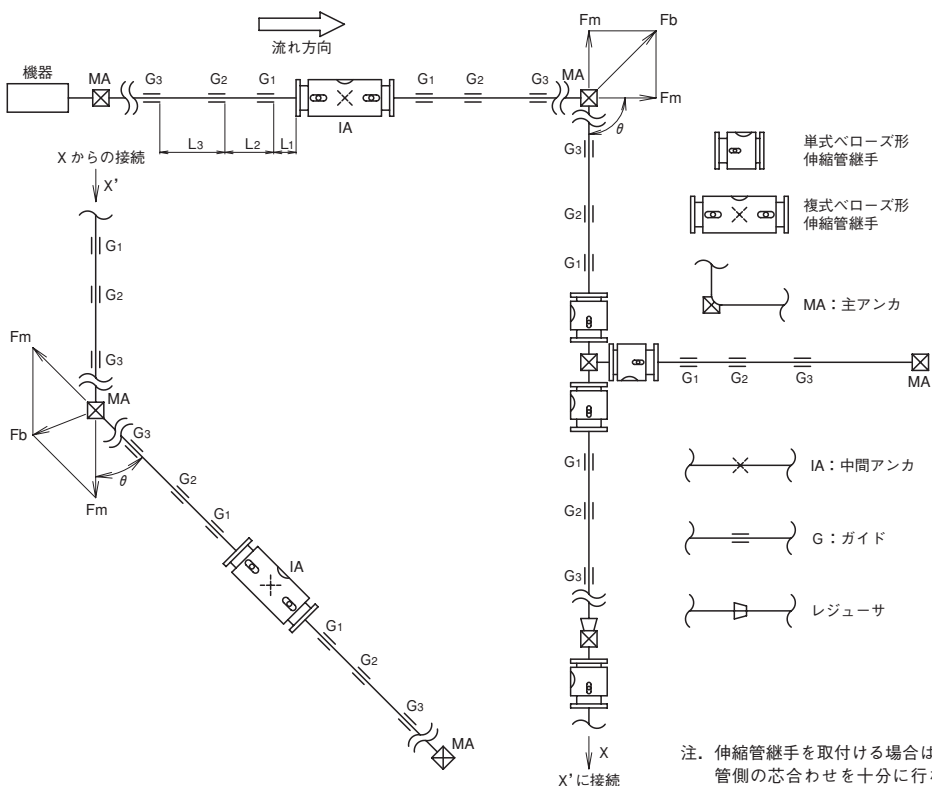
配管の自重、流体の質量等によって生ずる管の曲がり防止するためにローラサポート、またはローラハンガーガイドが必要です。

図3. 中間ガイドの最大間隔



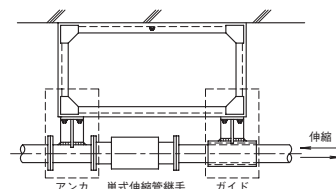
注. 配管がSTPGの場合は283頁図7をご参照ください。

図5. 配管例略図



注. 伸縮管継手を取付ける場合は、管側の芯合わせを十分に行ない、取付けてください。

図4. アンカ、ガイド(例)



他のガイド(例)

